

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から(保護者アンケートより)	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
愛されてのびのび遊ぶ元気な子	見て!聞いて!触れて!好きな遊びを楽しむ~大好きな場所で大好きな人と一緒に~	子どもが身近な人や物と関わる中で、自分の好きな遊びを見つけ満足するまで遊べるような工夫をする	子ども一人ひとりが何に面白さを感じているのかを捉え、遊び出しの環境や再構成を行うことができている。子どもたちは自分の好きな遊びを十分に遊んでいる。	A	B	子どもの興味や意欲を引き出すきっかけ作りを行っている。子どもが遊びの中で「またやりたい」が増え、好きな遊びを楽しんでいる。クラス・学年の話し合いが不足していたため、環境作りと一緒に考えて行うことがうまくできなかった部分もあった	・クラス内や学年の話し合いを行うことだけでなく、意識的に普段からの保育運営を共有をする。クラス内でうまくいかないことがある場合は、他クラスの職員または全職員と一緒に考える時間を作り、よりよい保育運営を図っていく
				B			
				C			
		優しく心地良い言葉をかけ、甘えや欲求に応え、安心して生活できるようにする	抱っこやおんぶをしたりひざに座らせて絵本を見たりとスキンシップを沢山取り、子どもの心の安定を図っている。大好きな保育者に甘えらることで安心して過ごしたり、欲求や思いを出せている。	A	B	子どもたちが安心して1日を過ごせるよう、甘えたい気持ちに気づき、受け止めている。不安な気持ちに寄り添い、スキンシップや温かな関わりを意識した	・わらべうたを今後続け全体で知識を深め、一対一の関わりを大切にしている。
				B			
				C			
		園庭や園外環境を有効活用し、身体を動かしたり、自然に触れたりする体験が、十分できるようにする	サーキット、赤土黒土、芝山での遊びを通して多くの経験ができるような園庭環境を作った。また園外散歩に行、登呂公園などで自然に触れる機会を作った。	A	B	登呂公園や団地公園に散歩に出かけ、秋の自然物に触れる機会を多く作った。また、園に持ち帰り、飾ったり園庭では落ち葉プールで遊ぶことを楽しんだ	
				B			
				C			

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から(保護者アンケートより)	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 子ども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて保育が進められ、子どもの育ちが見られる	学年目標、全体的計画と子どもの姿を照らし合わせながらそれに沿った保育を行っている。担任間で話し合いを重ね、保育運営をしている	A	B	発達段階に個人差があるが、個に合わせた支援や関わりができるよう、教育課程や全体的計画を確認しながら保育に反映した。また、学年目標を理解した上で保育し、日記等で振り返り・育ちを捉えた。	・子どもたちが遊びこめるよう園庭の使い方を改めて皆で話し合っ考えていく ・その日の振り返りを確実に行う ・全体的計画や教育保育指導要領等見る機会を増やし、子どもの発達を理解する
				B			
				C			
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・家庭と連携を取り合い、安心して過ごせるようにする ・一人ひとりの生活リズムに合わせて、安定した生活をおくれるように	入園時には家庭の様子や園児について丁寧に聞き取りを行う。登降園時に園での姿を伝えたり、朝打ちでの連絡事項の共有、早遅番への伝達も丁寧にすることで職員間でも連携を図っている。	A	B	定期的な写真配信、または送迎時に口頭で毎日の子どもの様子を伝えていく。0歳児は園でも安心して生活できるように、家庭で使用している生活用品(哺乳瓶等)を持参してもらい使用した。	・延長保育の子が多いと実際に保護者の顔が見えないので声をかけ、話をするなど意識する
				B			
				C			
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもがやってみたいと思えるような手作り玩具等の遊び出しの環境を工夫する	子どもの姿や発達に合わせた手作り玩具がある。また、遊び出しの環境について5分会議で職員間で共有し、その意見をもとに環境の再構成を行ったり、玩具の用意をしている。	A	B	子どもの身体的発達を促すような手作り玩具を子どもたちの興味に合わせて作成、提供をした。玩具を子どもの姿に合わせて入れ替えたり、新しく作ったりして環境を考えていった。	・学年の話し合い、職員会議等、環境の工夫についての意見を出し合いやすい場を作る ・人的環境を意識し、保育者間の連携も意識したい
				B			
				C			
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・安全点検を実施し、安心安全な環境を作る ・様々な災害を想定した訓練に取り組む	保育中のヒヤリハットを園全体で共有し改善に努めている。減災教育研修に全職員が参加し、室内の物の配置、危険な箇所等見直し、災害時の対応を考えている。	A	B	危険な箇所や怪我の原因を会議で報告し、職員間で共有した。また、各クラスの危険箇所を確認し、改善案をみんなで作成、即座に改善していった。安全な場所を確保しながら遊びも守られている。	・園内(室内・園庭)のヒヤリハット地図を作り、周知徹底につなげていく
				B			
				C			
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食事・排泄・着脱・清潔・睡眠等基本的な生活習慣が身につくよう、家庭と連携をとりながら、個に合った援助をする	個の生活リズムや発達に合わせて基本的な生活習慣が身につくように丁寧に園に合わせた様子を見守り、連携を取っている。	A	B	年齢や子どもの発達、姿に合わせた手立てや寄り添いを行い、無理なく生活習慣が身につくように。また、保護者へ遊びの面だけでなく生活面においても家庭と共有している。	・生活習慣は遊びと繋がっているため、生活体験で身につけたい力をつけていけるよう、遊びを充実させたい。
				B			
				C			
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	1人1人が生き生きと遊び、生活できるよう、発達や特性に合わせた支援をする	サポート事業、特別支援研修等参加し、学んだことを園全体へ報告している。また、1歳児後半よりサポートプランを作成し、個に合わせた関わりを職員間で共有している。	A	B	気になる子についてその子に合った支援を行い、生活しやすい環境を心掛けた。また、朝打ちや職員会議で共有したり年4回のケース討議を行っている。園内研修でABA支援を使い、具体的なエピソードをあげて職員間で話し合った。	
				B			
				C			
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自己の役割(分掌)に責任を持ち協力して運営を進める	各自の分掌に責任を持って取り組む職員が多いが、後回しになっている職員もいる。職員間で協力し合い計画的に、見直しを持って取り組むこととしている。	A	B	自分の役割には責任をもって取り組んでいる。また、フリー職員の協力のもと運営できていると感じる。ただ、分掌への意識、園全体で取り組むという意識が低いように感じる。	・園全体の仕事内容を把握するために、誰が何の仕事をしているか一目でわかるものを作る
				B			
				C			
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「大好きを見つけよう!」を理解し、日々の実践や話し合いを通して学び合う	研修テーマに向けて日々の手立てを全職員で行えるようにしている。また5分会議を定期的に行い、各クラスの職員と意見交換を行ったり、公開保育での学びを参加できない職員にもわかるように廊下に展示し、共通理解できるように努めている。	A	B	5分会議を通して意見交換を行っているため、様々な視点で捉え、保育に活かすことができた。公開保育では他園の保育者からも意見をもらうことができたのが良かった。ただ、保育の中で、研修テーマへの意識が薄れてしまったこともある	・5分会議での内容をクラス内で共有し、具体的な改善を報告することも必要
				B			
				C			
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	安心できる保育者との関わりの中、好きな遊びを十分楽しめるような環境を作る	温かい関わりやわらべうたなどを通して子どもと保育者との関係を深め、安心して好きな遊びを楽しめている。保育者も乳児にとって大事な環境であることを意識して子どもと関わった。保育室や園庭環境を定期的に見直している	A	B	応答的な関わりを基本として一人ひとりが好きな遊びを見つけ楽しめるように、また保育者とのやりとりから友だちとのやりとりへと繋がるように仲立ちをしている。子どもの興味関心・発達に合わせた手作り玩具も用意されている。	・「応答的な関わり」とは具体的にはどんな関わりかをクラス内や学年の保育者と話し合う ・園庭玩具の見直しや整頓、手作り玩具の管理の仕方を工夫する
				B			
				C			
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保育者と保護者が、子どもの良い所や成長の喜びを共有できる関係作りを努める	参加会やフェスタ等の機会を通して園での子どもの様子や成長を見せたい、共有することができた。また、コモンでの写真配信で子どもの様子を共有することで理解が深まった。	A	B	担任だけでなく、延長保育に関わる保育者も保護者と積極的にコミュニケーションを取り、子どもの成長を喜び合い共有している。	・保護者との懇談会の内容や様子を詳しく職員で共有する
				B			
				C			
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	隣接する支援センターや児童発達支援センターと連携と交流を図り、保護者にも発信していく	子育て支援センターでは毎週わらべうたを通して地域の人と交流を深めている。また、2歳児が児童センターもものプールで遊ばせてもらったり演奏会を見させてもらったりし、保護者にドキュメンテーションを使って発信した	A	B	子育て支援センターでのわらべうた交流では積極的に参加する方が多いので交流を深められている。	・交流の機会があった際はドキュメンテーションやおたよりを通して保護者にも発信していく ・2歳児だけでなく1歳児も他施設の方と交流を持てるようにしたい
				B			
				C			
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	散歩時の挨拶を積極的にして、地域の方との交流を図る	散歩時、地域の方や他園の人に対して挨拶は明るく積極的に行っている。また、園周辺の環境をきれいに整え気持ちの良い環境作りを心掛けている	A	B	散歩時は積極的に地域の方に挨拶をし、いい印象を持ってもらえるように心掛けた。近隣のお世話になっている場所に、勤労感謝の訪問でカレンダーをプレゼントするなど日頃の感謝と関わりを大切にしている。	
				B			
				C			